

オリオンビール株式会社

VAN/EDIと基幹システムをシームレスに連携し、人的コストを大幅削減 受注データの流れをエンドツーエンドで自動化、受注業務の効率化を実現

オリオンビールは、1957年に「戦後沖縄の社会経済復興」への強い思いにより設立されたビールメーカー。沖縄県の「県民ビール」として親しまれる「オリオン」ブランドのビールをはじめ、発泡酒やチューハイ、ソフトドリンクなどを全国に提供。同社では、取引先からの発注を担当者が電話やFAXで受け付け、基幹システムにデータを手入力し、物流などの後工程へとつなげてきたが、それら人手による業務の効率化・省力化が課題だった。そこで、商品流通VANサービスであるファイネットとBiware EDI Station 2を導入して、受注プロセスをEDI化。さらに、「ASTERIA Warp Core」を採用し、ファイネットから取得したデータを元に受注確認データや出荷確認データの生成、受注データの基幹システムへの連携を自動化。その結果、受注業務にかかわる工数の大幅削減を実現した。

導入背景

- 取引先からの電話やFAXをベースに行われていた受注業務を、EDIへ移行することによって、作業の効率化、省力化を目指していた
- 人手による基幹システムへのデータ入力作業の自動化が望まれていた
- 取り扱う商品の品目が増え、販路が拡大していく状況に追従していくため、受注業務の変革が課題となっていた

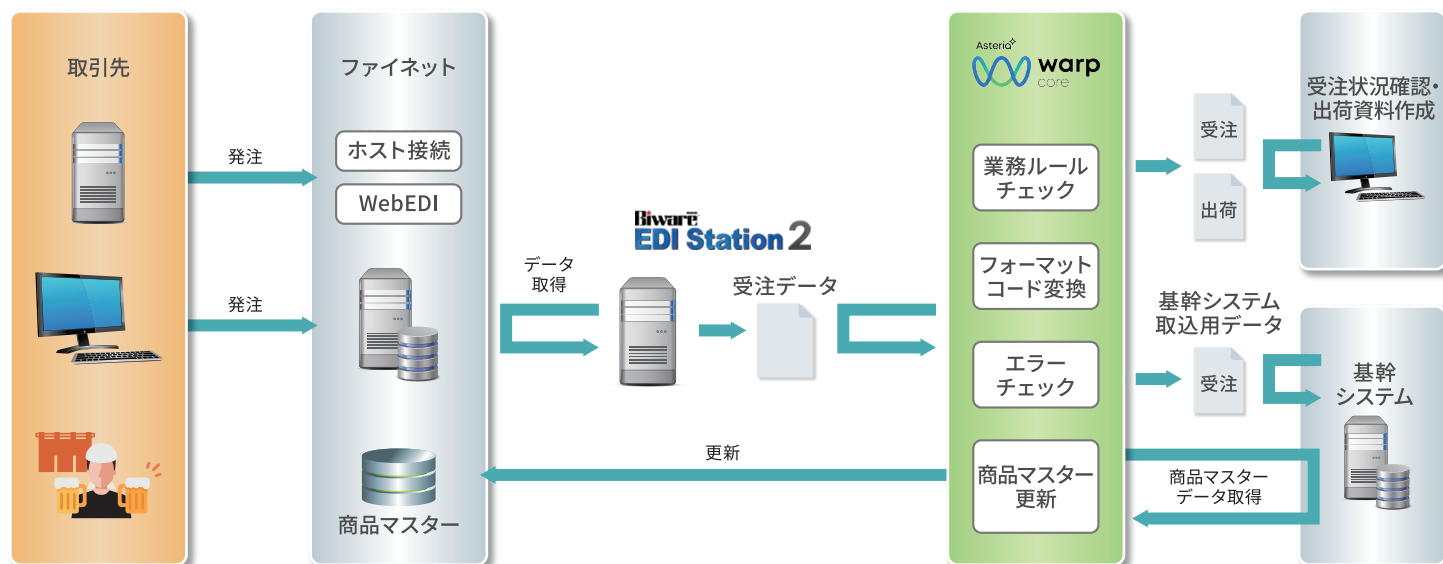
選定ポイント

- ASTERIA Warp Coreとファイネット, Biware EDI Station 2を組み合わせることにより、発注データの受信から基幹システムへの連携に至るプロセスの自動化が可能
- 業務ルールに準じた受注内容のチェック、フォーマット/コード変換、不備を知らせるメール送信、CSVファイルの自動生成などを柔軟に実装可能
- AWS (Amazon Web Services) を基盤としたシステムの展開が可能で、自社のポリシーである「クラウドファースト」の要件にも適っていた

効果

- 4~5名体制で行っていた受注業務において、受注件数が増加する状況にあっても1~2名でこなせるようになり、人的コストが半減
- ASTERIA Warp Core未経験の担当者2名が、内製で改修・保守を行い、現場部門の要望に柔軟に対応できる体制を整備
- 明細ベースで約90%の受注のEDI化が完了。受注業務だけでなく、取引先への出荷案内など、さらなる電子化推進を加速

システム概要



ユーザーのひと言



当社のASTERIA Warp Coreを活用したEDI化の取り組みは、沖縄県本島内の取引先の受注業務からスタートしました。その後、そこで構築したフローを内製により改修し、離島を含む県全域の取引先へと対象を広げました。県外への対応については、県内とは業務ルールも大きく異なりますが、主に居酒屋に卸す取引先向けのフローの開発をすでに完了し、本番運用を開始しています。近く、県外のスーパーなどの量販店へ卸す取引先向けのフローの構築にも取り組む予定で、今後、ASTERIA Warp Coreの活用を軸にEDI化の領域をますます拡大させていきたいと考えています。

オリオンビール株式会社 経営管理本部 ITソリューション部 新里 紹太 様

User Profile

Orion

所在地：沖縄県豊見城市字豊崎1-411

会社概要：「オリオン ザ・ドラフト」をはじめとする酒類清涼飲料の製造・販売のほか、ホテルなど観光不動産事業も展開

業種：製造業

URL：https://www.orionbeer.co.jp/